

令和2年度 第1回 地域包括支援センター運営等協議会 会議録

開催日時	令和2年11月20日(金) 19:00~19:40
場 所	四街道市保健センター3階 機能訓練室
出席委員	千羽会長、梅野副会長、松田委員、市川委員、岡田委員、 渋谷委員、清宮委員、兼子委員、田島委員、金子委員
事務局	齋藤部長、只野課長、三好課長補佐、坂本係長、安齋主査補、塩田主事 大川センター長、江沢センター長、田中生活支援コーディネーター(以下、 田中SC)、照沼認知症初期集中支援チーム員(以下、照沼チーム員)
傍聴人数	0人

会議次第

1. 開会
福祉サービス部長あいさつ
2. 議事
 - ① 地域包括支援センター 令和元年度決算及び事業報告
 - ② 認知症初期集中支援チームの活動報告
 - ③ 令和3年度の運営方針について
 - ④ 予防プランの再委託事業所の承認報告
 - ⑤ その他
3. 閉会

開会

議事 ① 令和元年度決算及び事業報告について

【決算について】

坂 本：(資料1-1に基づき説明)

千羽会長：それでは、令和元年度の決算について何か質問はあるか。

(質問なし)

【事業報告について】

坂 本：(資料1-2に基づき説明)

千羽会長：それでは、事業報告について何か質問はあるか。

田島委員：資料5の地域包括支援センター職員体制についてだが、成年後見制度について何らかの研修を全員受けているか。

大川センター長：専門職が外部で開かれた研修を受けるほか、包括支援センターが研修を開催することもある。そういったものを含めると、全員何らかの形での研修は受けている。

田島委員：資料1-2を見ると、成年後見制度は至る所に出てきており、相談件数も多いので、研修はきちんと受けたほうがよい。研修の予算が少ないのではないか。もっと増やしていった方がよい。よろしく願いしたい。

議事 ② 認知症初期集支援チームの活動報告について

坂 本：(資料2に基づき説明)

千羽会長：認知症初期集中支援チームについて何か質問はあるか。

松田委員：患者さんにも年配の方や認知症の方が増えてきた。長年見ているので、待合室からの立ち振る舞いなど「前と違うな」とわかる。そういう方は、自分で手入れする精度が悪くなってしまうので、前はきれいに磨けていた方も手入れが落ちてくるのがわかる。通院頻度で多いのは2～3か月に1回であり、間隔を詰めても月1回が限度だと思う。月1回では何もやっていないのと一緒にの状態になってしまう方がほとんどである。初期集中支援チームは口腔関係の人が入っていないので、できれば今後の人選にあたってはご認識いただきたいと思う。

千羽会長：今後、歯科関係者の方も入れるような形をご検討いただけたらと思う。

渋谷委員：資料2の3ページ目、(3)今後の課題の1点目、地域包括支援センターとの役割分担では、何の分担が課題か補足いただけるか。

照沼チーム員：認知症の方の支援は、包括支援センターが以前から取り組んできた経緯がある。対象者の基準はあるが、チームが包括支援センター内に設置されているということで、包括が支援するケースとの線引きが統一されていないのではないかと不安がある。

渋谷委員：チームの活動をどのタイミングで、どういうケースでやるかということか？

照沼チーム員：認知症の方への支援は包括で行っており、困難事例も包括で扱っていたという状況があった。中には、チームで集中的に関わった方がスムーズに行くのではないかと、ということでチームが関わる場合もある。このような部分で線引きが難しい。

渋谷委員：その基準は四街道市で考えていくものなのか？他市も同じような悩みがあるのか？他市の好事例を参考にするのか？

照沼チーム員：国の基準はあるが、全国でも医療機関や訪問看護ステーションなどチームの設置形態が様々なので、それによって挙がってくる経緯やケースが異なる。四街道市では包括支援センターが窓口となっているため、包括支援センターに相談があった人をチームにつなぐ流れとなっている。全国的にも、包括支援センターに設置されているところは同じような悩みを抱えていると認識している。

渋谷委員：認知症に対応している病院の相談員から直接挙がってもいいということか？

照沼チーム員：そういうルートもあると思う。

千羽会長：包括支援センターへ相談にみえる方は、ご家族が主になっているか？

刈センター長：総合相談には様々あるが、その中に認知症のご家族からの相談もある。基本的に、まずは包括支援センターで総合相談として把握している。

千羽会長：そこから必要な場合は、チームにつなげるということになる。

梅野副会長：初期集中支援チームの医師でもあるが、四街道市の初期集中チームは1チーム3名で、医師、保健師、社会福祉士となっている。佐倉市は人口17万ぐらいで5チームある。実際の活動では、かなり踏み込んでケースに関わっているため、認知症の方全てを網羅することは困難である。現在は困難事例から支援しており、主治医や医療サービスが入っているが、うまくいかない部分をコーディネートしている。役割的には認知症

の初期に介入した方がよいと思うが、マンパワー的には困難な状況がある。
松田委員からもご指摘があったが、いろんな他職種から成るチーム編成があるべきであり、今後チーム数を増やすことが望ましいのではという実感はある。チーム数の基準はあるか？現状で充足しているかという、そこは厳しい。充足していけば、軽い方への支援など裾野を広げていける余地があるかと思う。今の1チームでは限界がある。

坂 本：チーム数の基準はないので、地域の実情に応じてということになる。

佐倉市は5包括にそれぞれ兼務で置いており、包括ごとにその地域のチーム医師が配置されている。活動や件数は包括ごとにばらつきがあり、積極的につないでいるところは件数が挙がってくるが、どこから初期集中の活動にするかはまちまちである。業務が増えてしまうため、包括扱いにしておくケースもあるようで、数が伸び悩んでいるとも聞いている。千葉市も訪問看護ステーションに5か所設置されているが、地域によってまだまだ検討している状況である。一意見として考えていきたい。

千羽会長：四街道も高齢者が増えてきており、これでは足りないという時期が来ると思うので、ご検討いただけたらと思う。

田島委員：資料5にある初期集中支援チーム員は専従か？

坂 本：専任という位置づけです。

議事 ③ 令和3年度の運営方針について

坂 本：(資料3に基づき説明)

千羽会長：運営方針について、質問はあるか。なければ追加事項も含め、承認でよいか。

(全員 承認)

議事 ④ 予防プラン再委託事業所の承認報告について

坂 本：(資料4に基づき説明)

千羽会長：質問がなければ承認でよろしいか。

(全員 承認)

議事 ⑤ その他

【利用者アンケートについて】

坂 本：(「地域包括支援センター 利用者アンケート」に基づき説明)

千羽会長：アンケートについて質問はあるか？

金子委員：集計したアンケートは何枚か？みなみ包括の8月分は22枚ということでしょうか？

坂 本：みなみ包括の8月分の集計は、性別の箇所では1枚の用紙に○が2つ付いていたものがあった。このため枚数は22枚だが、回答数は24件となっている。それ以外は、性別の合計が回収数となる。

渋谷委員：アンケートを書く方は「相談してよかった」と思っている人だろうが、それにしても

こんなに満足度が高いのは素晴らしい。このまま継続してほしい。

千羽会長：アンケートは率直な意見だと思うが、言いにくい点はその場で書けないこともある。そのような部分は、今後他の形で率直な意見が集計できるように取り組んでいただきたい。

松田委員：アンケートの利用者への開示は、どの程度まとまったところで行うのか？

坂 本：開示の予定はしていなかったが、年度でまとめてホームページ等への掲載でよいか？

千羽会長：せっかくのアンケートなので、ご検討いただければと思う。

渋谷委員：回覧でもよいのでは？「こんなに満足度も高いので、来てください」ということで活用してはいかがか？

坂 本：検討します。

【連絡事項について】

千羽会長：それでは事務局の方から連絡事項等願います。

坂本係長：次回の開催予定は2月頃を予定している。主な内容は、地域包括支援センターの事業評価、令和2年度の進捗状況の報告と令和3年度の事業計画及び予算について予定している。

千羽会長：他にないようなので議事をこれで終了する。議事の円滑な進行にご協力いただき感謝する。

坂 本：以上で令和2年度第1回地域包括支援センター運営等協議会を終了する。

閉会（19：40）